



【理念】 昨日を反省し 今日を考え 明日に備える

【基本方針】

1. 私達は、患者様の人権と意思を尊重し納得と同意に基づく患者様本位の医療を心がけます
2. 私達は、地域住民の皆様健康維持増進に寄与し、安全で信頼を得る医療を実行します
3. 私達は、日々研鑽し働きがいのある職場をつくり良質で高度の医療を目指し努力します
4. 私達は、当院における診療機能を積極的に広報し、地域の医療機関、高齢者・福祉施設との連携を推進致します
5. 私達は、院内情報を共有し、健全で安定した運営を 継続するため努力します

血管外科へ新たに医師 1 名が入職し 当院でも

下肢静脈瘤血管内焼灼術（レーザー治療）

が可能になりました

入職 Dr 紹介



出津 明仁 (いづつ あきひと)
血管外科部長

【プロフィール】

茨城県出身。平成14年群馬大学医学部卒業。同附属病院、済生会前橋病院外科勤務後、群馬大学大学院へ進学。名古屋大学で血管外科診療を学び、愛知県立循環器呼吸器病センター、一宮市立市民病院、桐生厚生総合病院などの勤務を経て、平成31年4月より当院に勤務。

【資格認定】

- ◆日本外科学会専門医・指導医
- ◆心臓血管外科専門医・修練指導者
- ◆脈管専門医
- ◆血管内治療医（日本血管外科学会認定）
- ◆臨床研修指導医
- ◆下肢静脈瘤血管内焼灼術実施医・指導医
- ◆腹部大動脈ステントグラフト実施医
- ◆浅大腿動脈ステントグラフト実施医

【診療する上で大切にしていること】

患者さんの症状や診療に対する希望を確認し、適切な医療を提供すること

【好きな言葉・座右の銘】

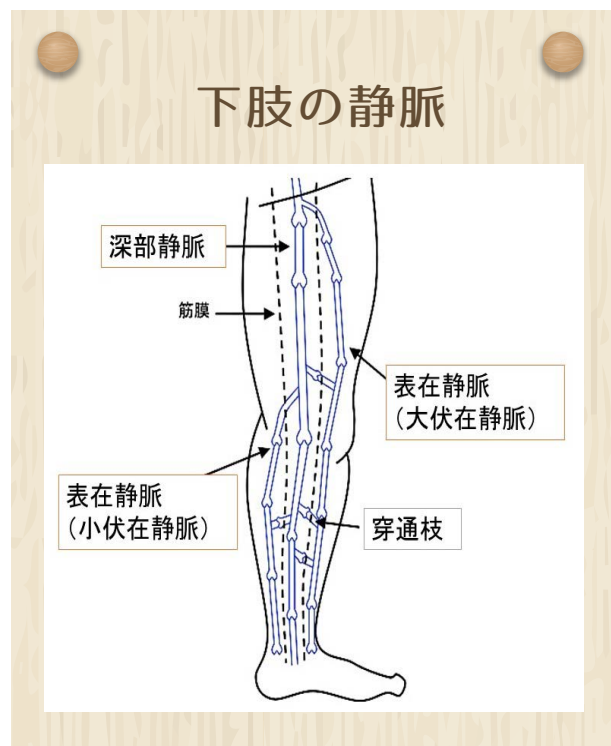
信念を持つ

下肢静脈瘤の要因は 性別、加齢、遺伝、職業など様々

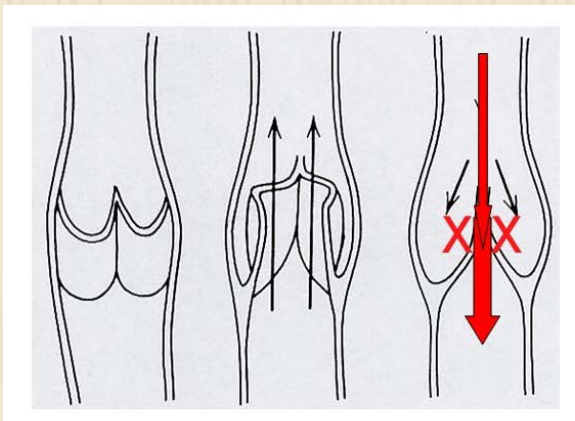
下肢静脈瘤は静脈が瘤(こぶ)状にふくれる病気です。下肢の静脈には皮膚表面近くにある表在静脈、筋膜下、筋肉内を通る深部静脈、表在静脈と深部静脈とをつなぐ穿通枝(せんつうし)があります。表在静脈の逆流防止弁が壊れ、血液の逆流が起こることが下肢静脈瘤の原因です。

一般的には女性に多く、男性の3倍の頻度といわれています。女性の場合には妊娠、出産をきっかけに発症する人が多いです。加齢とともに悪化することが多く、また静脈瘤になりやすい体質は遺伝すると考えられています。

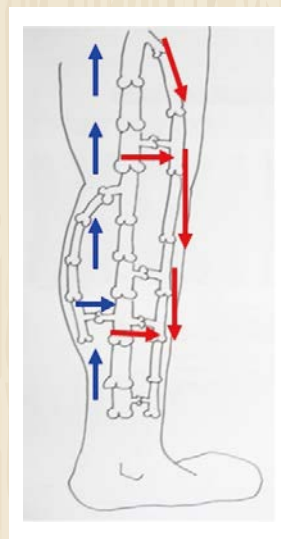
職業とも関連があり、立ち仕事(美容師・理容師、調理師、接客業など)に従事される方に多くみられる病気です。診断は超音波検査で行い、この検査結果をもとに治療方法を検討します。



静脈の逆流防止弁



弁が壊れることで血液逆流が生じる



表在静脈の逆流

下肢静脈瘤の症状

特別な症状がなく、見た目の問題だけの方が20%程度おられます。

下肢静脈瘤の症状には下肢のだるさ、痛み、むくみ、こむら返り、かゆみなどがあります。

皮膚症状として湿疹・皮膚炎、褐色の色がつく色素沈着、皮膚が硬くなる脂肪皮膚硬化症、皮膚がえぐれてしまう潰瘍などがあります。

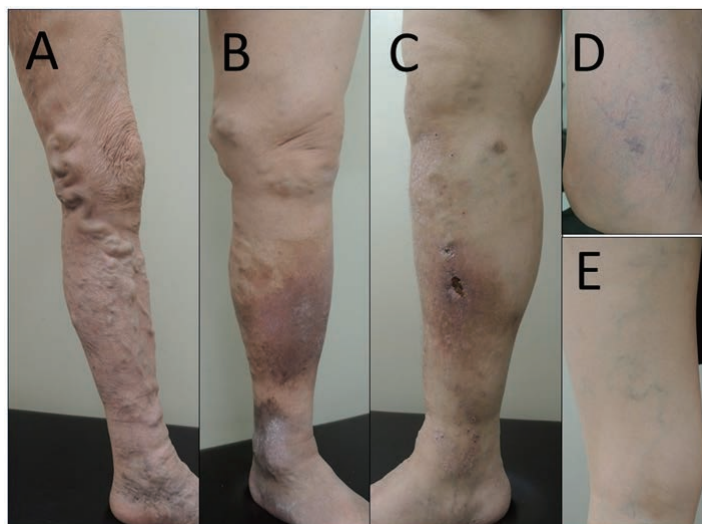
下肢動脈瘤の症状

無症状	美容上の問題
痛み	静脈瘤部の痛み。立ち仕事をした後に多い
筋痙攣(けいれん)	こむら返り。足がつる。夜間、明け方に多い
下肢のむくみ	午後から夕方に症状が悪化する
血栓性静脈炎	静脈瘤が赤くなり、硬くなって痛みを伴う
出血	怪我をしたとき、あるいは自然に起きることもある
かゆみ、湿疹	下腿の皮膚がかぶれやすくなる
色素沈着	にじみ出た血液の成分で下腿の皮膚が茶色になる
脂肪皮膚硬化症	下腿の皮下組織が線維化する。皮膚が硬くテカテカになる
潰瘍	下腿の皮膚が弱くなり、えぐれてしまう。なかなか治らない

様々な下肢静脈瘤 (A-E)

下肢表面の静脈瘤が目立つだけでなく、Bでは皮膚脂肪硬化症、Cではさらに皮膚潰瘍も伴っています。

軽い静脈瘤の場合にはクモの巣状静脈瘤(D)、網目状静脈瘤(E)のみのことがあります。



下肢静脈瘤の治療

下肢静脈瘤は自然治癒が期待できないため、少しずつ悪化します。無症状で見た目も気にされない方に関しては治療を行う必要はありませんが、下肢症状のある方や見た目の問題を気にされる方に関しては治療を行います。

湿疹や皮膚炎などの皮膚症状を伴う方はさらに脂肪皮膚硬化症、潰瘍などへ悪化してしまうことがあるので、診断がつき次第早めに手術治療を行います。脂肪皮膚硬化症になってしまった皮膚は下肢静脈瘤治療を行っても元に戻ることは期待できません。

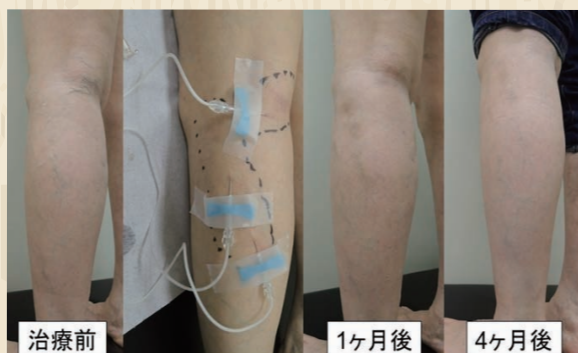
下肢静脈瘤の治療は大きく分けて、圧迫療法(弾性ストッキングあるいは弾性包帯での圧迫)と手術治療の2つがあります。

圧迫療法の目的は下肢のたるさやこむら返り、痛みなどの下肢症状を改善させることであり、見た目の改善や静脈瘤そのものの治癒は期待できません。

手術治療は下肢静脈瘤の原因である静脈自体に対して治療を行います。現在は保険診療で血管内焼灼術(レーザー焼灼、ラジオ波焼灼)が可能となり、切開をせずとも従来のストリッピング手術と同等の治療成績が得られます。

焼灼術だけでは静脈瘤が残存することが予想される場合には静脈瘤切除や硬化療法を追加することもあります。焼灼術の適応にならないクモの巣状あるいは網目状静脈瘤といった皮膚表面の細かな静脈瘤の場合には硬化療法単独での治療を行います。

フォーム硬化療法



下肢の静脈瘤に硬化剤を注射して空気と混ぜて泡状にする

ストリッピング手術

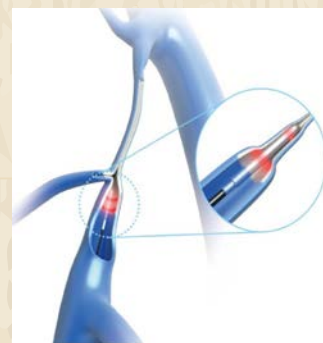
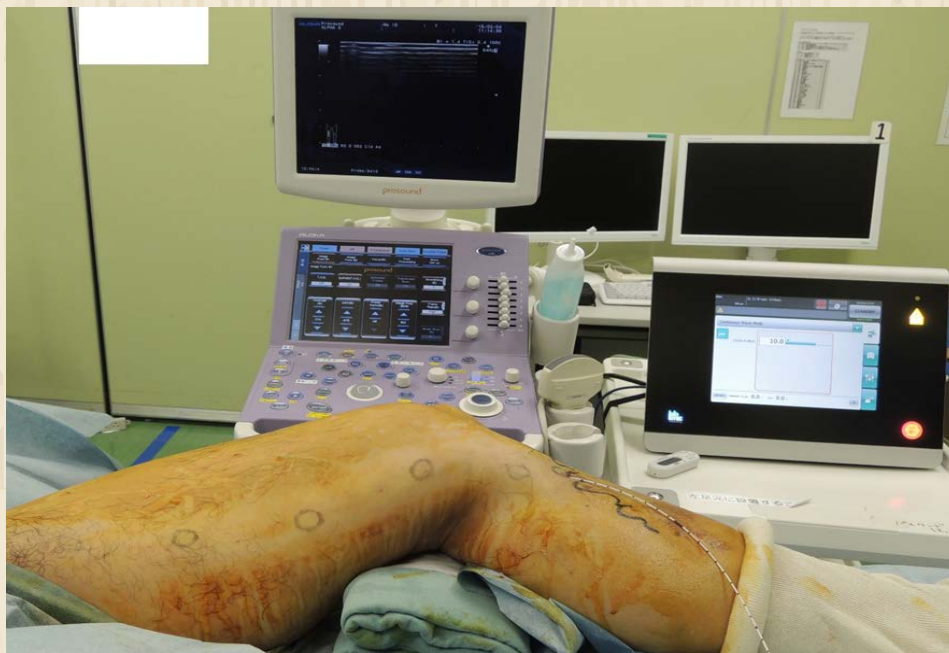


単径部から膝下までの大伏在静脈を抜去

足のつけ根と膝の内側の2ヶ所を切り静脈の中に細いワイヤーを入れワイヤーごと静脈を抜き去る

血管内焼灼術

-左下肢静脈瘤に対するレーザー焼灼術-



膝付近で静脈内にカテーテルを挿入し
エコーで位置を確認しながら、レーザー焼灼を
行います。



▲レーザーのイメージ

地域の先生方へ

血管外科では動脈瘤、末梢動脈疾患(閉塞性動脈硬化症、バージャー病など)、急性動脈閉塞症、下肢静脈瘤、深部静脈血栓症、リンパ浮腫、血液透析用ブラッドアクセス手術(いわゆるシャント手術)などを対象とし、保存的治療から、カテーテル治療、外科手術まで、病気の状態に応じた治療を心掛けます。

対象となる患者さんがおりましたらぜひご紹介ください。

血管外科部長
出津 明仁

《 出津Dr 入職によるオペ室の変化 》

出津Drが入職し、4月より下肢静脈瘤血管内焼灼術が開始されました。

当院では今まで実施されていなかった手術でしたので、使用するレーザーの機械や物品など初めて見るものも多く、新鮮です。出津Drは、オペ室スタッフとも積極的にコミュニケーションをとってくださるので、手術に関することや手順などを丁寧に教えてもらっています。術中も現在何をしているのか、血管の状態などもわかりやすく説明してくれます。



立ち仕事の方が罹患しやすい静脈瘤は、私たち看護師にとっても大変興味深い症例です。現在オペ室では手術に関わる院外研修会等へ参加し、個々の知識を向上させることも計画しています。


今後も桐生、みどり、太田地区一帯の症例を担い、安全かつ円滑に手術を遂行することができるようオペ室スタッフ一同、日々業務に取り組んでいきたいと考えています。

手術室科長 瀧田 薫

受診のご予約について

ご予約・お問合せ 0277-76-1027 (入退院センター医療連携担当)

FAXでのご予約

FAX : 0277-76-1028 

受付時間 9:00~18:15(月~金)

土曜(第1・3・5)9:00~12:30

紹介状・申込書をFAXにて送信してください。当院より「外来診療予約票」を返信いたします。

お電話でのご予約

TEL : 0277-76-1027 

受付時間 9:00~18:15(月~金)

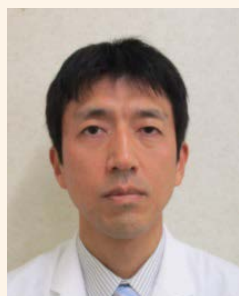
土曜(第1・3・5)9:00~12:30

上記番号へお電話ください。
患者様の氏名・生年月日・予約希望日をお知らせください。

* 時間外・休日等のお申込は翌診療日にご連絡させていただきます。

2019年度 入職医師紹介

2019年4月以降に当院へ入職となりました医師のご紹介です。



出津 明仁 (いでつ あきひと)

血管外科部長

【担当診療科】血管外科

【資格等】日本外科学会専門医・指導医／心臓血管外科専門医・修練指導者

脈管専門医／血管内治療医(日本血管外科学会認定)／臨床研修指導医

下肢静脈瘤血管内焼灼術実施医・指導医／腹部大動脈ステントグラフト実施医

浅大腿動脈ステントグラフト実施医



中山 哲雄 (なかやま てつお)

消化器内科医長

【担当診療科】消化器内科

【資格等】日本内科学会総合内科専門医・認定医／日本消化器病学会専門医

日本消化器内視鏡学会専門医／日本消化管学会胃腸科指導医・専門医・認定医

日本カプセル内視鏡学会認定医／日本ヘリコバクター学会ピロリ菌感染症認定医



梅山 敦 (うめやま あつし)

循環器内科部長

【担当診療科】循環器内科

【資格等】日本循環器学会循環器内科専門医／日本内科学会総合内科認定医

日本心血管インターベンション治療学会認定医



大塚 瑛公 (おおつか まさのり)

【担当診療科】内科



押川 泰士 (おしかわ たいし)

研修医